

望月朴清の会

望月朴清 作品集

平成二十五年八月十八日(日)
午後五時開演
神楽坂劇場(半込軍用区民ホール)

ご挨拶

この度「望月朴清の会」を開催する運びとなりました。

朴清の名跡を襲名して以来、初めてのリサイタルであり、古典の三味線音楽を離れてオリジナル作品のみを演奏する従来の邦楽とは趣の変わった演奏会でもあります。

平成七年度芸術祭参加作品で、初めてのオリジナル曲である「古事神鳴」平成八年度芸術最優秀賞を受賞した「鼓響」それらの思い出深い曲に今回、新たな編曲と演出をほどこし、一門のお仲間と共にみな様にお届けします。

特に「古事神鳴」は金子あいさんの朗読を加え、過去の作品とは異なる舞台として再演させていただきます。

邦楽という大いなる宇宙の中で歌舞伎の世界で培った経験を活かし、囃子・鳴物を中心とした楽曲に、どこまで新しい世界を広げて行けるのか新たな挑戦の始まりでもあります。

どうぞ、心ゆくまでお楽しみ下さい。

鼓響

藤舎 推 峰

望月 左之助

東音 高橋智久

望月 朴 清

望月 太喜之丞

「鼓響」

日本人の心に響く音やリズムをイメージした創作器楽曲です。
人間が母親の胎内で初めて聴く音、それは心臓の鼓動ではないでしょうか？

鼓動のリズムは打楽器のリズムと通じるものがあります。

さらに「こきょう」という音は「故郷」につながります。

母の心臓の鼓動、懐かしい故郷……

誰もが持っている心中原風景を思い浮かべてお聴き下さい。

囃そう・獅し・叟そう

笛	望月 美沙 輔
小鼓	望月 左 京
小鼓	望月 太意三郎
小鼓	望月 朴 清
大鼓	望月 左 吉
大鼓	望月 太意之助

「囃・獅・叟」

素囃子の代表である獅子物と三番叟を、新しいスタイルで演奏します。
邦楽独特の手法を使いながら現代に生きる音楽として、リズムの変化など
獅子と三番叟の融合をお楽しみ下さい。

望月 左之助

藤合 推 峰

望月 太喜之丞

古事神鳴

望月 朴 清

望月 太意三郎

朗読

金子 あ い

望月 美沙輔

望月 左 京

〔古事神鳴〕

十五年以上前、初めて作曲した思い出深いオリジナル曲です。

数々の囃子の楽器による演奏で「古事記」の世界を表現しようと取り組みました。

今回は金子あいさんが朗読で参加し、作品に新しい色を加えてくれました。

「国造り」「神々の登場」「天の岩戸」までが曲の中におさめられています。

そして、今回の曲は全体の構成でいうと第一章です。

「古事記」は天の岩戸が開いてからも、まだまだ続きます。

これから先も囃子の音楽で「古事記」の世界を創作し、最終楽章まで到達すべく、ライフワークとして取り組んでいきます。

御礼の言葉

去年は想像もしていなかったリサイタルが、今日このように開催できた事は夢のようです。朴清の藝名が決まってからたくさんのお力添えをいただき、長い唱歌舞技の世界に生きてきた自分がいろいろな人達との出会いのおかげで、時には優しく、時には厳しく叱咤激励をうけ、新たな一步を踏み出す事ができました。

皆様には言葉にならないくらい感謝の思いで一杯です。

その中で、「鼓舞系の会」「和の輪の会」を立ち上げられたのも、諸先輩方、またご賛同頂いた方のお力の賜ものと存じます。

この素晴らしい入達の出会いをこれからも大切に、望月一門の方々と共々に邦楽舞子の発展のために精進努力してまいります。

最後になりましたが、今回の会にご協力いただきました出演者の皆様、スタッフ 関係者の方々、またお暑い中、足を運んでくださった皆様にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

出演者

スタッフ

望月 左 吉
望月 左之助
舞台監督 高山 春夫

金子 あい
望月 太意之助
アナウンス まるのめぐみ

東音高橋智久
望月 太喜之丞
デザイン・映像
望月 太意三郎
インクス・市谷 雅裕

藤舎 推 峰
望月 左 京
プログラム ダイコオー企画
望月 美沙 輔

主 催

五代目

望月朴清

〒一〇一〇〇〇三

東京都台東区根岸五―十一―十

電話〇三―六三二二―九七四四